



## 「リケジョ」ブームに期待するもの



名古屋大学大学院生命農学研究科教授、名古屋大学男女共同参画室長・同担当副理事 東村 博子

最近、新聞などで「リケジョ」の言葉をよく見かける。理系女子の略称(愛称?)である。その背景には、わが国の科学技術のさらなる発展に資する、女性活躍への期待がある。日本の科学技術分野で活躍する女性の割合は年々増加している。一方で、女性の活躍は、他の先進諸国に比べてもまだまだ限定的である。日本において女性の能力を科学技術分野で活かせば、企業も社会全体も活性化されることは言うまでもない。

名古屋大学では、女性比率が少ない理系分野に焦点をあて、理系女子学生のための理系進学推進事業を展開してきた。例えば、女子中高生を対象として、大学や企業で活躍する女性研究者による講演会を毎年開催し、理系学部を目指す女子中高生の増加に努めてきた。また、学内の大学院生や若手教員を対象として、若手女性研究者サイエンスフォーラムを開催し、優秀な研究発表に対して「総長賞」を授与するなど、女性研究者へのエンカレッジに努めてきた。また「あかりんご隊」は、本学が誇る理系女子学生によるコミュニティであり、彼女らが学内外イベントにおいて、科学実験をご披露するなど、理系女子の活躍を社会に発信している。

理系を含めた全分野において、今後の日本の活性化のために、グローバルな視点で、社会貢献できる女性リーダーの活躍が必須である。本学では、H25年より文部科学省リーディング大学院事業「ウェルビーイングinアジア」実現のた

めの女性リーダー育成プログラムにより女性リーダー育成に努めている。農学、医学、保健学といった理系分野に、教育学、国際開発学を加えた文理複合プログラムである。アジアでの実地研修や女性リーダーによる講義など、全て英語による教育を行っている。アジア諸国ではたくさんの女性リーダーを輩出してきた。本プログラムを修了した女性リーダーが、アジアの対等なカウンターパートとして、アジアの幸福に貢献してくれると期待している。

女性の活躍を促進するためには、何と言っても組織のトップの「本気度」が大切である。本学では、濱口前総長の「女性の活躍が21世紀の日本を救う」という理念が、H27年度より就任した松尾総長にも引き継がれ、活動のさらなる発展段階を迎えている。例えば、女性教員リーダーの増加を可能とする人事システム強化や、男女共同参画のための拠点(センター)の設置が決まっている。長年の男女共同参画推進の実績と歴代総長の強いコミットメントが国際的に評価され、本学はH27年に、国連機関UN Womenの「HeForShe」キャンペーン事業により、世界の女性活躍を推進するチャンピオン10大学のひとつとして、国内で唯一選出された。リケジョのみならず、さまざまな分野において、国際社会でリーダーシップを発揮できる女性の活躍が大いに期待される。

## 個人助成受託者報告会の開催

2015年7月12日(日)、東海ジェンダー研究所が2014年度に研究助成をした3名の受託者の研究成果の報告会を開催した。参加者との間で活発な議論が交わされ、今後の展開が期待される内容であった。

### 第1報告

森 悠一郎 (東京大学大学院法学政治学研究所 助教)

「N.フレイザーの「再分配／承認の正義」と労働法におけるジェンダー立法の規範理論的考察」

### 第2報告

洲崎 圭子 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻博士後期課程)

「<向こう岸>で錯綜するマチスモ言説 ―カステリャノスとシスネロスの小説作品から―」

### 第3報告

横山 美和 (お茶の水女子大学基幹研究院研究員)

「女性医師Clelia Duel Mosherの月経調査と19-20世紀転換期米国のジェンダー・ポリティクス」

第1の森報告は、法哲学の正義論(法価値論)という視点からジェンダーの問題を取り上げたもので、N・フレイザーの「再分配／承認の正義論」を批判的に検討した意欲的な研究である。女性共通のアイデンティティを求めるあまりに「誤承認」に陥りやすい危険に対しては、女性を含めたさまざまな社会構成員を自立した「個人として尊重」することの必要性が説かれた。発表内容がフレイザー以外にも多岐に亘ったため、ある程度整理することが求められよう。

第2の洲崎報告は、メキシコないしメキシコ系の女性作家カステリャノスとシスネロスの小説作品から、マチスモ(男性優位主義)言説に囚われた男性人物像を浮き彫りにしたものである。マチョ(男らしさ)のイメージが、1970年代以降米国への移民が増加するにつれ、アングロ・サクソン系の白人たちによって、暴力や貧困と結び付いた否定的なものに変わっていくという指摘には、マチョを作り上げる女性の心理とその役割云々と共に、興味深いものがあった。

第3の横山報告は、男性中心の科学言説がどのように性差を構築してきたのか、という問題関心からなされた研究である。米国の女性医師C・D・モージャーの月経調査と性差を限りなく極小化するという論説を取り上げて、女性の身体そのものの可変性のみならず、因習的な身体からの解放によって女性が社会進出する可変性をデータで示した。要望としては、モージャーの研究の延長線上に、現代社会の我々はどのような指針を得ることができるのか、という点で報告者の考察をさらに深めてもらいたい。

いずれの報告も、若手研究者にありがちな荒削りで未完成な部分も見られたが、それ故にまた、将来の成長が大いに期待される報告内容でもあった。それは、フロアとの間で活発な議論が交わされたことがいみじくも語っているところである。

日置雅子(東海ジェンダー研究所理事)



## 団体助成報告会の開催

近年、多くの男女共同参画センターで縮小や指定管理者への委託がすすんでいる。2012・2013年度の団体助成の中に、男女共同参画センターをテーマとする研究が2件あり、この研究報告を基に、変貌していく男女共同参画センターの課題と今後のあり方を考える報告会を2015年9月12日(土)に開催した。2つの報告の後、意見交換とコメントーターのまとめがあった。

多くの参加者からも活発な意見が出され、終了後は再度の開催の希望も多く聞かれた。

### 第1報告 「新たな経済社会の潮流の中での男女共同参画推進センターの役割についての検討」

団体名 特定非営利活動法人 リソース・エンパワメント・ネットワークREN  
新たな経済社会潮流の中の男女共同参画センターの役割研究プロジェクト

### 第2報告 「男女共同参画支援施設の現状と課題—相談者と相談員をともにエンパワメントするための比較研究—」

団体名 「男女共同参画センターが行なう相談事業の現状と課題」研究会

報告1では、センターの制度・体制、取り扱う課題、位置づけ等が大きく変化している中で、役割をどう考えるかの問題提起がなされた。センターを必要とする人とどうつながるか、女性活躍促進とセンターとの関わりは、政策意図・政策理念・実態との乖離にも着目することが重要とされた。

報告2では、センターにおける相談事業の課題、センターで働く人たちのエンパワメント等について調査の結果が出された。多様性、地域課題への取り組みについて今後も取り組むとの報告がなされた。

最後にコメントーターから、センターの全国状況と指定管理者制度の導入状況、そこからくる事業の質や内容継続性への課題、公益法人化に伴う変化、女性の活躍促進法等新たな取り組みについて課題提供がなされた。

男女共同参画センターについて参加者の多くが、今後も研究課題としていく必要性を持っていた。

吉村幸子(東海ジェンダー研究所評議員)



## 2015年度 研究助成受託者の決定

	氏名・団体名	テーマ
個人:5名 (応募総数27)	大森 順子	フェミニズムにおける子ども・子育ての位置づけと子育て支援に向けての思想構築～子育て支援のなかでの母親の困難さとフェミニズム思想の役割を考える～
	瀬戸山 有美	未就学児をもつ女性医療従事者におけるワーク・ライフ・バランスに対する育児支援の効果の実証的研究
	山本 千晶	「中絶の権利」からリプロダクティブ・ライツへ
	古橋 綾	「内鮮結婚」政策に見る大日本帝国の植民地主義:超国的なジェンダーの視点から
	中村 雪子	インドにおける開発プログラムとしての女性酪農協同組合再考:ガバナンスとエンパワメントの視点から
団体:1団体 (応募総数5)	WISH (女性と制度と歴史研究会)	女性運動と行政の協働に関する調査研究: 男女雇用機会均等法の成立過程を事例として
	アプロ・未来を創造する在日コリアン女性ネットワーク (決定通知後、都合により辞退されました。)	

## お知らせ

詳しくは順次ホームページでお知らせします。

### 2015年度 ジェンダー問題基礎講座

#### 「ジェンダーとはなにか ー政治思想史で読み解くジェンダーー」

講師の水田珠枝さんは、日本のジェンダー研究における草分け的存在で、その著書として著名な『女性解放思想史』（筑摩書房 1979年）があります。多数のご参加をお待ちしております。

講師：水田 珠枝さん  
 日時：2015年12月5日(土) 13:30～16:00  
 会場：東海ジェンダー研究所 セミナー室

#### <講師プロフィール>

東海ジェンダー研究所顧問。名古屋経済大学名誉教授。津田塾専門学校卒業、名古屋大学法学部政治学科卒業、名古屋大学大学院法学研究科政治学科修士課程修了、法学博士。専攻分野は、政治思想史、ジェンダー史。

#### (チラシより)

1980年代にジェンダーという用語が日本で普及しはじめてから、30年あまりが経過した。その間、ジェンダーがたどってきた道は平坦ではなかった。日本では保守派から「ジェンダー・フリー」にバッシングが加えられ、フェミニズムの側からはそれへの反撃がなされた。欧米では、脱構築やクイア理論から批判が投げかけられ、複雑な論争が展開されてきた。こうした状況のなかで、ジェンダー論が目ざしているのは男女平等の実現であることから、近代政治思想で論じられた平等論を参考に、フェミニズムにおけるジェンダーの意味を把握しなおしてみることとする。

### 海外派遣報告

この夏、ワシントンD.C.とニューヨークへ3名を派遣し、アメリカ女性政策研究所IWPR等、アメリカにおけるジェンダー関連機関の活動やジェンダー研究の実情を視察いただきました。その報告を通して、当研究所の今後の事業展開やジェンダー研究のあり方を考える機会にしたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2015年12月5日(土) 10:30～12:00  
 会場：東海ジェンダー研究所 セミナー室

#### 海外派遣について

日程：2015年8月26日から9月4日  
 訪問先：アメリカ合衆国 ワシントンD.C. ほか  
 女性政策研究所IWPR、フェミニスト団体NOW (National Organization for Women)ほか  
 参加者：大野 光子さん(当研究所評議員、愛知淑徳大学名誉教授)  
 武田 貴子さん(名古屋短期大学教授)  
 新井 美佐子さん(当研究所理事、名古屋大学大学院准教授) ※新井さんが代表で発表する予定です。

### 2015年度 賛助会員のつどい

#### 「捏造の科学者 STAP細胞事件」

2014年のSTAP細胞事件は、大きな注目を集め、社会問題に発展しました。毎日新聞取材班の中心メンバーとしてスクープを連発し、『捏造の科学者 STAP細胞事件』（文芸春秋）で2015年の大宅壮一ノンフィクション賞（書籍部門）と科学ジャーナリスト大賞を受賞した須田桃子記者が、日本の科学の信頼を揺るがした事件の経緯や背景、社会に残された教訓について語ります。

講師：毎日新聞社東京本社科学環境部 記者 須田 桃子さん  
 日時：2016年1月30日(土) 13:15～15:40  
 会場：サイプレスガーデンホテル 3F 小宴会場

どなたでもお申込みいただけます。詳細は決定次第、チラシ、HPなどでお知らせいたします。

## 賛助会員を募集しています。

賛助会費 年間 一口 1,000円  
 振込先 郵便振替口座 00820-0-77338  
 公益財団法人東海ジェンダー研究所

- \* 会員の皆様には当研究所の年報『ジェンダー研究』やニュースレター『LIBRA』、講演会などの事業のご案内をお送りします。
- \* 当研究所は公益財団法人の認定を受けており、会費及び寄付については税法上の優遇措置があります。

#### 編集後記

今年は8月末から9月初にかけてアメリカ・ワシントンD.C.の女性政策研究所などに3人を派遣し、アメリカのジェンダー関連機関やジェンダー研究の状況を調査しました。秋にはイギリスのフェミニスト活動家ゲイル・チェスターさんをお招きして国際講演会やミーティングを行い、また、男女共同参画センターをテーマに団体助成報告会を行うなど、例年になく事業を実施し、ジェンダー研究やフェミニズムの今後のあり方を考える貴重な機会となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



公益財団法人 東海ジェンダー研究所

〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-19 ミズビル6F

T E L 052-324-6591 FAX 052-324-6592

E-mail info@libra.or.jp http://www.libra.or.jp/